

2019年6月の行事予定表

1	土		16	日	礼拝式、青年・壮年・女性会の例会日
2	日	総員礼拝式(聖餐式)、教会役員会 ギデオンのアピールデー!	17	月	
3	月		18	火	地区女性会・研修会(広島教会)
4	火		19	水	聖書の学びと祈り会
5	水	聖書の学びと祈り会	20	木	祈禱会
6	木	祈禱会	21	金	朝の祈り会
7	金	朝の祈り会	22	土	
8	土		23	日	礼拝式、伝道・教育・祈禱等の各部会
9	日	ペンテコステ礼拝式(聖餐)、奉仕の日	24	月	
10	月		25	火	
11	火		26	水	聖書の学びと祈り会
12	水	聖書の学びと祈り会	27	木	祈禱会
13	木	祈禱会	28	金	朝の祈り会
14	金	朝の祈り会	29	土	
15	土	岡山平和の会 60周年記念講演会	30	日	賛美礼拝式(奨励：寺島ダリ姉)
			31		

6月お誕生・洗礼記念日の皆様、おめでとうございます。

編集後記

- ◇ 岡山の四聖人の一人、石井十次は孤児院を運営するなかで、困難にぶつかったときは、近くの操山に登って祈ったそうです。この話は、初めて息絶え絶えに操山に登り切った頂上で聞きました。ここから孤児院を見、天を仰いで祈ったのか、と想像しました。
- ◇ 牧師だった父は屋根裏が祈りの場所でした。ある友人は祈りこむため一泊家を離れました。愛の人ほどよく祈ることを教えられた経験です。

教会月報 2019年6月 No.337

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

ペンテコステ

「五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いてくるような音が天から聞こえ彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、「霊」が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。」使徒言行 2 : 1 - 4

キリスト教の三大祝祭日は、クリスマス(キリストの誕生)・イースター(キリストの復活)・ペンテコステ(聖霊なる神の降臨)です。そして、父と子と聖霊なる神が一体となることを表す三位一体(三面一体)が唯一の神であります。

さて、イエス・キリストは神であられたが、父なる神はイエスを人間の姿を取らせて世に現れたお方です。唯一我ら人間と違う点は、イエスは罪を犯されなかったのです。

復活されたイエス・キリストは40日にわたり、弟子たちや多くの人に現れ、霊体ではないお体に触れさせられました。そして、彼らの前で天に昇られます。その時、彼らに約束されます。聖霊が降るとの約束でありました。弟子たちは祈って待ち続けた結果、五旬祭(ペンテコステ=第50の意味)に突然、不思議な出来事が起こります。弟子たちは、表現できないほどの出来事が目の前で起こり、驚くべき事実によって圧倒されながら、不思議な神の力である聖霊の力を受けたのです。

信仰の世界は、常識では十分説明できないものがあります。しかし、いにしえから今日まで聖霊の働きによって変えられた人々が存在した事実は隠しようがありません。かつて弟子たちは主イエス・キリストを裏切り、おびえてかくれていた状態でありました。その弟子たちがなぜこれほどまで勇敢になったことの秘訣は、聖霊なる神の働きにあったのです。

牧師 永松 清

祝福された野外礼拝



5月19日、青空が広がる朝となった日曜日に今年も足守の十文字平和教会の上にある愛の鐘ロッジにて野外礼拝が捧げられました。

去年はあいにくの雨天だったこともあり天候が心配されたのですが、今年は風が少々強く吹く中でしたが爽やかな好天となり一同感謝いたしました。

岡山ナザレン教会を9時半に出発した数台の車に分乗した方々やそれぞれ乗り合わせて集まった参加者は計30名を数え、賑やかな野外礼拝となりました。特にS家やY家の皆さんが参加して子どもたちと一緒にの礼拝は本当に感謝でした。T.Y.君の聖書箇所のおりっぱな朗読に続いて、永松師より『約束の聖霊』と題して三位一体の神さまについての詳しい説明と6月9日のペンテコステの意味について聖句を引用しつつ子どもたちにもわかりやすいメッセージを頂きました。当日はF兄姉によるバイオリンとギターによる奏楽でさんびを行いました。お二人の息のあった伴奏によって当日出席した30名の歌声が足守に響きました。

礼拝後は今回も参加者各自が持ち寄ったご馳走を囲んでの昼食会。それぞれの腕を振るったお料理がふんだんに振舞われて、全員が満腹の大満足でした。

その間にF姉とO姉のデュエットによるさんびも披露されて、その歌声にも感謝！
幸せな気持ちに満たされた素敵な一日でした。



みことばを通して

聖書を開くと

自然の中に身をおくとき、このすばらしい世界を誰が造ったのかに思いを馳せます。聖書を開いてみましょう。

◆『目を高く上げ、誰が天の万象を創造したかを見よ』

イザヤ四十一章二十六節

◆『野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神は装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことではないか。』

マタイ六章二十八、三十節

◆『主は天上の宮から山々に水を注ぎ、御業の実りをもって地を満たされる。家畜のためには牧草を茂らせ、地から糧を引き出そうと働く人間のために、さまざまな草木を生えさせられる。』

詩編百四編十三、十四節

5月奨励要旨

S. K. 兄

《求めて…探して…門をたたけば?》

マタイ 7:7~12

私は高校卒業後に姉が嫁いだ京都西陣のレース工場に就職しました。そこは納期との競争で休みも無い毎日となりました。レース製品の模様等うまくいくはずの物がどうしても少しだけキズが入ってしまう状態となり、苦勞している私に先輩が簡単な調整で直してくれましたが、私は悔しくて仕方なかった。先輩のマネをしても完璧なものにはならないことが、今の私の100%の結果を求める性格を形作ったように思います。

日曜日はその一家が上京教会に行くので一緒に行くうちに信仰に導かれましたが、その礼拝がある午前中が私の安息の場でした。そして午後はまた仕事でした。

今日の聖書箇所ですが『求めていくことの大切さ』を意味しています。求め続けていくことがどこまでできるか?という事において私も、先ほどの、キズが入らない製品作りを求め続けてそのことを学びました。『探すことができるか?』とは答えを探すということだと思います。その答えを探して、ものづくりも続けられました。

『門をたたく』どのような門でも、門(カンヌキ)が入っていたら開けることはできません。その門を外してもらうためには、門をたたいて開けてもらう必要があります。

これらのことで大切なのは『祈り』です。求める祈り、探す祈り、門を開けてもらう祈り。

私の信仰生活も長くなりましたが、まだ中途半端です。ただ神様から『たまもの』を与えられたお陰で、クリスチャンとして生きてこられました。

行動には目的を持つことが大切です。NHKの『チコちゃん』ではありませんが、ボーッと生きてはいけません。私も八十の節目が近づいていますが、主は道を示して下さい。私がしている仕事は非常に奇跡に近い恵みを実感できますが、同じように学んでいた方々は辞めてしまっているのが残念です。止めることなく求め、探し、門をたたくことで得られた恵みを、他の方々に伝えるように一步一步歩いていきたいと思っています。